

CHUO UNIV. 神宮燃ゆ!! 25年ぶり「東都」制す BASEBALL CLUB

2度、3度と、清水達也監督の体が、宙に舞った。

つづいて、背広姿の福原紀彦野球部長、

そして、主砲・亀井義行右翼手、エース・会田有志投手……。

全員野球で勝ち取った「25年ぶりV」の歓喜が

神宮の三塁側中大ベンチ前で何度もはじけた。

東都大学野球秋季リーグ、優勝をかけた中央大学対駒沢大学の3回戦は11月5日午後1時から神宮球場で行われ、中大が3対0で駒大を撃破、堂々の優勝を決めた。79（昭和54）年春季くらいじつに25年ぶり、通算24度めの優勝である。

前日、中大は駒大を2X対1で破り、対戦成績を1勝1敗のタイに戻し、勝ったほうがリーグ優勝という、文字通りの最終決戦に臨んだ。序盤、投手戦でゼロ行進が続いた四回表、中大は待望の1点を先取。その後もともに得点なく最小得点差の息づまる展開が続いた。九回表だった。すでに2死、ランナー一塁の場面で、四番・亀井。この日快音のなかった亀井のバットが旋回した。美しいフォームから、白球が美しい弧を描いて、ライトスタンドに吸いこまれていく。Vを決定づける2点ホームラン。九回裏の駒大最後の反撃も、途中から連投登板したエース・会田がびしやりと封じた。

「打」と「投」のヒーローが最後を仕上げてみせた、見事なまでの優勝・劇——。応援スタンドが揺れた。そう形容したいほどに、アルプススタンドから、バックネット裏まで、天に突き上げるコブシ、歓声、「C」の小旗が波のように続く。広く散らばったOBら「中大勢」を一カ所に集めれば、2000人を優に超えるだろう。

角田邦重学長も顔を見せた。試合後の会議を「駿河台記念館」に急きよ変更しての応援である。「神宮にきたのは、いやもう何年ぶりになるでしょうか」。応援席前列で、破願立ち上がって、小旗をうち振った。

前日の対駒大ナイトゲームも、いつもはまばらな応援席に約1000人がつめかけた。この夜がじつは天王山、大変だったのである。負ければ終わり。いや、「夢破れたり」と、一瞬天を仰ぐシーンが何度もあった。両軍コチコチ、ともにエラーがらみで2対1、中大アヘッドで迎えた駒

大の九回表。2死後ヒットで二塁から駆けこんだ駒大走者を、三・本間に挟んだ。「よし！これで中大勝利」と確信したとたんに、またエラーが出てボールを後逸、駒大ホームインして振り出しのタイ。と思つたら、ベース・タッチしていなかった走者に、会田投手が飛びつくようにしてタッチ・アウト、ゲームセット。薄氷の勝利ではあつた。

敵失に泣いた駒大と、敵失がほほえんだ中大。勝利の女神を呼びこんでそのまま一気に決戦を制した——ともいえるだろう。優勝を逸した駒大は勝率で一転4位に。「戦国東都」はそれほど厳しく、それほど難しい「V」である。

前夜に続き1点リード後なかなか加点できない謙虚さに「1点ゲームが『質実剛健』に似合っているのかねえ。胃が痛くなる」とボヤいた神宮常連のOBは、亀井の打打に、「役者だねえ。見せ場の一発。プロ（野球）でもやってくれるよ」と太

鼓判を押した。

11月8日、選手たちは多摩キャンパス・中央ステージに並んだ。学生たちへの「優勝報告会」。25年ぶりに手にする深紅の優勝旗、優勝カップ。優秀選手が紹介された。

△最高殊勲選手賞▽亀井義行（商4）△最優秀投手賞▽会田有志（文3）△ベストナイン▽捕手・新田玄気（商4）▽外野手・亀井▽同・村田和哉（文1）▽指名打者・久保田修平（商2）。全員野球のたまものである。

福原部長は「25年前、選手たちはまだ生まれていなかった。学生・職員・校友みんなの喜び」とたたえ、清水監督は「集中力を切らすことなく選手たちががんばってくれた」と力をこめた。最後に選手を代表して亀井主将。「7万5000人のみなさま、本日は……」とユーモアまじりのお礼あいさつに、300人ほどの学生からどつと拍手がわいた。その足で一号館に向かい、会議を

終えた阿部三郎理事長、角田学長、六学部長らにも優勝を報告、祝福を受けた。

「中大スポーツ」は画面刷りの「号外」を発行。これも「中大スポーツ」史を飾る初めてのことだという。喜

びの輪はキャンパスを包んで広がった。

日本一を決める「明治神宮大会」は13日から開催。中大は惜しくも敗退した。

「開幕1軍めざしたい」 亀井選手、巨人入団へ

11月17日開かれたプロ野球のドラフト会議で、中央大学の主砲・亀井

から35分が経過したあたり。

「巨人軍が4位指名しました」

義行選手を巨人が4順めで指名。翌日ただちに入団の話し合いに訪れた球団側に、亀井選手は基本的にOKの意思を伝え、巨人入りが決まった。

中大公式野球部マネージャーがマイクで会場に伝えると、ヒナ壇の亀井選手の緊張した表情がくずれ、晴れやかな笑顔になった。

ドラフト会議直後の記者会見で同選手は「開幕1軍をめざしてがんばりたい」とプロでの決意を語った。

記者会見を終えると、野球部員たちとともに、グリーンテラスへ。テレビ局が用意したジャイアンツのマスコット「ジャビット」を手に笑顔

多摩キャンパス1号館に設けられた記者会見場に、待ちに待った連絡が届いた。ドラフト開始の午後2時

の主将を、部員たちが肩車し胴上げして祝福した。モノレールへ向かう人

降りてくる人が立ち止まる。「わー、ラッキー」「亀井さん、こっち向いて。あっちからもこっちからも携帯電話・カメラが向けられる。あたらしいヒーローは、01年阿部慎之助選手入団のころはなかった「カシヤツ」の電子音に祝福されて、始動した。

【記者団との一問一答】

――まずは、おめでとーございませう

「ありがとうございます」

――巨人軍に指名されましたが、今の心境を聞かせてください

「とりあえず、ホッとしています」

――きのうはよく眠れましたか

「はい、しっかり眠れました」

――家族とはどのような話を

「電話で話をして……緊張するな

と」



――巨人のイメージは？

「やっぱり強い、打撃のチームというイメージです。自分はまだ打撃では負けると思うので、守備・走塁などの長所を伸ばしていきたいと思います」

――巨人の試合を生で見たことは

「あります」

――感想は？

「ユニフォームに威圧感があり、憧れました」

――堀内監督のイメージは？

「やはり、怖くて近寄りたくないイメージが……（笑）」

――巨人軍には、同じ中央大学出身の阿部選手がいますが、話をしたことはありますか

「はい、電話であります」

――どのような話を

「現役の際はキャプテンだった方なので、アドバイスをいただきました」

――目標や憧れの選手は

「阿部さんですね」

――どういった点が

「野球に詳しいところです」

――プロに入って対戦したい投手はいますか？

「まだ考えていません」

――同年代にライバルとする選手は？

「全日本野球で一緒にやった一場選手（「楽天」入り）と対戦してみたいですね」

――亀井選手のセールスポイントはどこですか？

「肩ですね。肩だけは誰にも負けないと思うので、アピールしていきたいです」

――これからプロでやっていくうえでの課題は？

「すべてが課題です。自分は体の大きさがまだまだなので、これから鍛えて頑張ります」

――巨人ファンへ一言

「早く名前を覚えてもらいたい。そして自分はしっかりと野球をやるだけです」

——ニックネームは「亀」で？

「覚えていただければなんでもいいです」

——プロ1年目の目標と将来の目標は？

「とにかく開幕一軍。バッティングだけじゃなくて、守備、走塁、必死にがんばっていききたいです」

——こういう選手になりたい、こんな賞をとりたいというのはありますか？

「決まったばかりで何も考えていないんですが、バッティングで活躍していききたいですね。何でもいから賞をとればうれしいです」

△清水監督に▽

——清水監督から見て亀井選手はどのような選手ですか？

「走攻守三拍子そろっている。守備、走塁のうまさが目立つ。バッティングは努力していけばもっと伸びると思います」

——チームにとつての亀井選手の存

在とは？

「キャプテンで、3年間、苦しい思いをしたこともあったと思います。特に秋のリーグ戦では周りに気を遣っていました」

——プロとしてどういう選手になつてほしいですか？

「ケガをすることなく、毎試合出場してほしいです」

◇

亀井選手は、右投げ左打ち。MVP 11回、ベストナインに3回。秋季リーグでは5本の最多本塁打を打ち、史上10人目となる通算100安打も達成した。

179センチ、74キロ。中大のマークの入ったスーツ姿もよく似合う。謙虚さのなかに闘志をにじませる会見だった。

スポーツ紙などとの会見のあと、亀井選手は「中大生へのメッセージ」と持ちかけた学生記者に、「目標をもってやれば、夢は叶うということですよ」と語った。

中央大学「電子掲示板映像コンテンツ」

<http://www.chuo-u.ac.jp/chuo-u/kouhou/eizo/eizo1.html>



11・5 神宮燃ゆ！
熱戦／中央大学VS駒沢大学
11・17 亀井選手、巨人入り記者会見
ライブ映像で見られます